

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B1)

(11)特許番号

特許第6994801号

(P6994801)

(45)発行日 令和4年1月14日(2022.1.14)

(24)登録日 令和3年12月16日(2021.12.16)

(51)国際特許分類

F I

G 1 6 H 10/60 (2018.01)

G 1 6 H 10/60

G 0 6 Q 50/22 (2018.01)

G 0 6 Q 50/22

G 0 6 Q 50/10 (2012.01)

G 0 6 Q 50/10

請求項の数 5 (全11頁)

(21)出願番号 特願2021-533759(P2021-533759)
 (86)(22)出願日 令和2年3月31日(2020.3.31)
 (86)国際出願番号 PCT/JP2020/014797
 審査請求日 令和3年7月8日(2021.7.8)
 早期審査対象出願

(73)特許権者 515158272
 株式会社 P E C O
 東京都渋谷区千駄ヶ谷三丁目 6 0 番 7 号
 (74)代理人 110002790
 O n e i p 特許業務法人
 (72)発明者 岡崎 純
 東京都渋谷区千駄ヶ谷三丁目 5 番 1 号
 株式会社 P E C O 内
 審査官 田川 泰宏

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 電子カルテシステム、方法、プログラム

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

動物病院において動物を管理する電子カルテシステムであって、
 前記動物に係る診察、入院及び手術を含むカルテ種類ごとにカルテ情報を記憶するカルテ情報記憶部と、
 前記動物に係る診察、入院及び手術を含むカルテ種類の少なくともいずれかを選択可能にするためのカルテ種類ボタンと、現在選択中の前記カルテ種類に属するカルテ項目のうちの少なくともいずれかを選択可能にするための選択タグと、指定のカルテ項目に関する情報から抽出された情報と、をユーザ端末にて表示可能な画面情報としてユーザ端末へ送信するカルテ表示制御部と、
 を備え、
 前記カルテ種類ボタンは、複数種類のカルテ情報が選択可能であること、
 を特徴とする電子カルテシステム。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の電子カルテシステムであって、
 前記カルテ表示制御部は、異なる前記カルテ種類についての前記カルテ情報から同一の前記カルテ項目に関する情報から情報を抽出して一覧表示すること、
 を特徴とする電子カルテシステム。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 のいずれかに記載の電子カルテシステムであって、

前記カルテ項目には、検査、処置及び処方少なくともいずれかが含まれること、
を特徴とする電子カルテシステム。

【請求項 4】

コンピュータにより動物病院において動物を管理する電子カルテの管理の方法であって、
前記動物に係る診察、入院及び手術を含むカルテ種類ごとにカルテ情報を記憶するステップと、

前記動物に係る診察、入院及び手術を含むカルテ種類の少なくともいずれかを選択可能にするためのカルテ種類ボタンと、現在選択中の前記カルテ種類に属するカルテ項目のうちの少なくともいずれかを選択可能にするための選択タグと、指定のカルテ項目に関する情報から抽出された情報とを、ユーザ端末にて表示可能な画面情報としてユーザ端末へ送信するステップと、を含み、

10

前記カルテ種類ボタンは、複数種類のカルテ情報が選択可能であることを、
を特徴とする方法。

【請求項 5】

動物病院において動物を管理する電子カルテの管理方法をコンピュータに実行させるプログラムであって、

前記動物に係る診察、入院及び手術を含むカルテ種類ごとにカルテ情報を記憶するステップと、

前記動物に係る診察、入院及び手術を含むカルテ種類の少なくともいずれかを選択可能にするためのカルテ種類ボタンと、現在選択中の前記カルテ種類に属するカルテ項目のうちの少なくともいずれかを選択可能にするための選択タグと、指定のカルテ項目に関する情報から抽出された情報とを、ユーザ端末にて表示可能な画面情報としてユーザ端末へ送信するステップと、を実行させ、

20

前記カルテ種類ボタンは、複数種類のカルテ情報が選択可能であることを、
を特徴とするプログラム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本開示は、電子カルテシステムに関する。

【背景技術】

30

【0002】

動物用の電子カルテが用いられている（特許文献 1 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開 2015 - 069578 号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献 1 では診察用の電子カルテが想定されているが、入院や手術を行う場合には別途独立のカルテが作成される。

40

【0005】

本開示はこのような背景を鑑みてなされたものであり、動物用のカルテを効率的に管理することのできる技術を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記課題を解決するための本発明の主たる発明は、動物病院において動物を管理する電子カルテシステムであって、前記動物に係る診察、入院及び手術を含む対応ごとにカルテ情報を記憶するカルテ情報記憶部と、第 1 の前記対応を行う際に、前記第 1 の対応とは異なる第 2 の前記対応についての前記カルテ情報から項目を読み出して表示するカルテ項目表

50

示部と、を備えることを特徴とする。

【発明の効果】

【０００７】

本開示によれば、動物用のカルテを効率的に管理することができる。

【図面の簡単な説明】

【０００８】

【図１】本開示の第１の実施形態に係る電子カルテシステム１の構成例を示す図である。

【図２】本実施形態に係るサーバ１０を実現するコンピュータのハードウェア構成例を示す図である。

【図３】本実施形態に係るサーバ１０のソフトウェア構成例を示す図である。

10

【図４】本実施形態に係るカルテＤＢ１０４の一例を示す図である。

【図５】本実施形態の電子カルテシステムの動作について説明する図である。

【図６】ユーザ端末２０に表示される画面２０１の一例を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【０００９】

<概要>

以下に添付図面を参照しながら、本開示の一実施形態に係る電子カルテシステムについて説明する。なお、本明細書及び図面において、実質的に同一の機能構成を有する構成要素については、同一の符号を付することにより重複説明を省略する。

【００１０】

20

本実施形態の電子カルテシステムは、動物病院における動物についてのカルテを電子的に管理しようとするものである。動物病院においては、診療時にカルテ情報が作成される。カルテ情報には、診療時に動物の受けた検査、処置、処方などに関する情報が含まれる。本実施形態の電子カルテシステムは、このカルテ情報をコンピュータのデータベースに管理する。また、動物病院においては、入院時や手術時には、検査時に作成されたカルテとは別途独立した異なるカルテがそれぞれ作成される。本実施形態の電子カルテシステムでは、動物病院の従事者が複数種類のカルテ情報を横断的に走査することができるようにしている。これにより、医療従事者は、複数種類のカルテを参考にして、動物患者のケア方針を事前に決定することが可能となる。

【００１１】

30

<システム構成>

図１は、本開示の第１の実施形態に係る電子カルテシステム１の構成例を示す図である。図示するように、本実施形態の電子カルテシステム１は、動物病院管理サーバ１０（以下、サーバ１０と称する）を含んで構成される。サーバ１０は、ユーザ端末２０（２０ａ、２０ｂ、２０ｃ、・・・）と、ネットワークＮＷを介して通信可能に接続されている。なお、本構成は一例であり、ある構成が他の構成を兼ね備えていたり、他の構成が含まれていたりしてもよい。

【００１２】

本実施形態においてネットワークＮＷはインターネットを想定している。ネットワークＮＷは、例えば、公衆電話回線網、携帯電話回線網、無線通信網、イーサネット（登録商標）などにより構築される。

40

【００１３】

サーバ１０は、動物患者のカルテを管理するコンピュータである。サーバ１０は、例えば、動物病院により直接的に管理されてもよいし、動物病院を運営する組織や、少なくとも一の動物病院にかかる動物病院管理システム１を提供するサービスにより管理されてもよい。

【００１４】

また、例えば、サーバ１０は、ワークステーションまたはパーソナルコンピュータのような汎用コンピュータとしてもよいし、或いはクラウドコンピューティングによって論理的に実現されてもよい。

50

【 0 0 1 5 】

ユーザ端末 20 は、例えば、動物病院に勤務する医療従事者 R 1 が所有する、または貸与されている端末である。ユーザ端末 20 は、医療従事者 R 1 により操作され得る。例えば、ユーザ端末 20 は、携帯電話、スマートフォン、タブレットコンピュータまたはパーソナルコンピュータ等であり得る。

【 0 0 1 6 】

< サーバ 10 >

図 2 は、本実施形態に係るサーバ 10 を実現するコンピュータのハードウェア構成例を示す図である。コンピュータは、少なくとも、制御部 11、メモリ 12、ストレージ 13、通信部 14 および入出力部 15 等を備える。これらはバス 16 を通じて相互に電氣的に接続される。

10

【 0 0 1 7 】

制御部 11 は、サーバ 10 全体の動作を制御し、各要素間におけるデータの送受信の制御、及びアプリケーションの実行及び認証処理に必要な情報処理等を行う演算装置である。例えば制御部 11 は、CPU (Central Processing Unit) 等のプロセッサであり、ストレージ 13 に格納されメモリ 12 に展開されたプログラム等を実行して各情報処理を実施する。

【 0 0 1 8 】

メモリ 12 は、DRAM (Dynamic Random Access Memory) 等の揮発性記憶装置で構成される主記憶と、フラッシュメモリまたは HDD (Hard Disc Drive) 等の不揮発性記憶装置で構成される補助記憶と、を含む。メモリ 12 は、制御部 11 のワークエリア等として使用され、また、サーバ 10 の起動時に実行される BIOS (Basic Input/Output System)、及び各種設定情報等を格納する。

20

【 0 0 1 9 】

ストレージ 13 は、アプリケーション・プログラム等の各種プログラムを格納する。各処理に用いられるデータを格納したデータベースがストレージ 13 に構築されていてもよい。

【 0 0 2 0 】

通信部 14 は、サーバ 10 をネットワークに接続する。通信部 14 は、例えば、有線 LAN (Local Area Network)、無線 LAN、Wi-Fi (Wireless Fidelity、登録商標)、赤外線通信、Bluetooth (登録商標)、近距離または非接触通信等の方式で、外部機器と直接またはネットワークアクセスポイントを介して通信する。

30

【 0 0 2 1 】

入出力部 15 は、例えば、キーボード、マウス、タッチパネル等の情報入力機器、及びディスプレイ等の出力機器である。

【 0 0 2 2 】

バス 16 は、上記各要素に共通に接続され、例えば、アドレス信号、データ信号及び各種制御信号を伝達する。

【 0 0 2 3 】

本実施形態に係るユーザ端末 20 を実現するコンピュータやスマートフォン等の端末のハードウェア構成は、図 2 に示すサーバ 10 のハードウェア構成例と同様であるため、説明を省略する。

40

【 0 0 2 4 】

図 3 は、本実施形態に係るサーバ 10 のソフトウェア構成例を示す図である。サーバ 10 は、カルテ表示制御部 101、入力手段制御部 102、カルテ情報更新部 103、カルテ DB 104 を備える。カルテ表示制御部 101、入力手段制御部 102、カルテ情報更新部 103 は、制御部 11 がストレージ 13 に記憶されているプログラムをメモリ 12 に読み出して実行することにより実現され得る。また、カルテ DB 104 は、メモリ 12 およびストレージ 13 が提供する記憶領域の一部として実現され得る。なお、カルテ DB 104 は、サーバ 10 以外の一または複数のサーバが提供する外部の記憶領域の一部として実

50

現されてもよい。

【 0 0 2 5 】

カルテ D B 1 0 4 は、動物病院に通院または入院する動物のカルテ情報を管理するためのデータベースである。図 4 は、本実施形態に係るカルテ D B 1 0 4 の一例を示す図である。図 4 に示すように、カルテ情報には、診察カルテ情報、入院カルテ情報、及び手術カルテ情報が含まれる。なお、動物病院に一度でも通院した動物については診察カルテ情報が作成され、さらに動物病院に入院した動物については入院カルテ情報が作成され、手術を受けた動物については手術カルテ情報が作成される。したがって、入院カルテ情報及び手術カルテ情報は、必ずしも全ての動物について作成されるわけではない。カルテ情報は、例えば、動物毎に動物 I D と関連づけて管理され、また、動物毎のカルテ情報は、受診日または入院期間毎に管理される。

10

【 0 0 2 6 】

動物が病院の受診時に獣医等が入力した診察カルテ情報とは別に、動物の入院時に獣医等が入力した際には、入院カルテ情報として管理することもできる。この場合、入院時の入院カルテ情報は受診時の診察カルテ情報と共通するものを含むことができるが、例えば、飲食、排尿、排せつに関する情報、入院中の動物の画像及び／または動画、入院時の排泄を確認するために散歩に出る場合、散歩中の画像及び／または動画、及び各々の画像等に関するコメント等を含むことができる。さらに、動物が手術を受けたときに獣医等が入力した際には、手術カルテ情報として管理することもできる。この場合、手術時の手術カルテ情報は受診時の診察カルテ情報と共通するものを含むことができるが、手術カルテ情報には、さらに、例えば、受けた手術の内容、手術の日時、手術時に投薬した薬などの情報を含めることができる。カルテ情報のうち、動物の飼主等のユーザに共有可能な範囲（例えば、入院や入院に関するカルテ情報に限る等）を、医療従事者が操作するユーザ端末 2 0 からの設定要求等に応じて、設定することができる。

20

【 0 0 2 7 】

カルテ情報に含まれる項目には、図 4 に示すように、動物情報、問診情報、身体所見、病歴、検査情報、診断情報、処置／投薬情報、処方情報、メモ、画像情報などがある。

【 0 0 2 8 】

動物情報には当該動物患者が該当する動物種情報が含まれる。動物種情報の例としては、イヌ、キツネ、タヌキ、フェネック、ネコ、ハムスター、モルモット、ハツカネズミ、シマリス、タイワンリス、プレーリードッグ、モモンガ、ウサギ、サル、ミニブタ、フェレット、スカンク、ロバ、ウマ（ミニチュアホース、ファラベラ）、九官鳥、ジュウシマツ、セキセイインコ、オカメインコ、ワカケホンセイインコ、文鳥、鳩、ミズガメ、リクガメ、ヤモリ、トカゲ、ヘビ、ワニ、カエル、サンショウウオ、金魚、錦鯉、熱帯魚、エビ、カブトムシ、クワガタムシ、スズムシ、水生昆虫、カマキリ、クモ、サソリ、サソリモドキ、ウデムシ、ヒヨケムシ、ムカデ、ヤスデなどが例示されるがこの限りではない。更に、イヌにおいても、犬種（犬の品種）等の下位概念が存在し得る。動物情報は、診察カルテ情報、入院カルテ情報及び手術カルテ情報の全てに含まれる。

30

【 0 0 2 9 】

問診情報は、飼い主から取得する主観的な情報（主訴）である。例えば、「ご飯をあまり食べていない」「足に擦り傷ができています」「太ってきた」「元気がない」「鼻水が出ている」等であり、飼い主が所有する動物を見たときに観察される症状である。問診情報は、動物病院に来院した際に問診表や問診用端末等を利用して飼い主から取得することとしてもよいし、飼い主が所有する携帯端末等で事前に入力してもらい取得することとしてもよい。入院時及び手術時においても問診は行われ、入院カルテ情報及び手術カルテ情報にも問診情報は含まれる。

40

【 0 0 3 0 】

身体所見が含まれる。身体所見とは、動物病院等において獣医師等が調べることができ、客観的な数値で表せる身体情報である。例えば「体重」「体温」「心拍」「呼吸数」等である。

50

【 0 0 3 1 】

病歴とは、獣医師等が聴取した主観的な情報である。病歴は、上述した問診情報と同一になる場合も多いが、例えば「喉が赤い」というように飼い主だけでは実際に確認するのが困難な項目も含まれている。また、問診情報では「血尿が出ている」という情報が取得されたとしても、獣医師等によって診察したところ「肛門から出血している」という現病歴が聴取されることもある。

【 0 0 3 2 】

検査情報には、少なくとも当該動物患者が過去に受けた検査の内容を含んでいる。検査情報には、過去の通院、入院又は手術において受けたことのある検査や、検診において受けたことのある検査などを含めることができる。その際に、検査に対する反応（嫌がったかどうか等、検査自体の受容性・許容性に関する情報）を関連付けて記憶することとしてもよい。

10

【 0 0 3 3 】

診断情報には、少なくとも当該動物患者が過去に受けた診断の履歴が含まれている。診断情報には、過去に罹患した具体的な疾患名や怪我等の情報を含めることができる。診断情報には、過去の通院、入院又は手術において疑われた診断に関する情報を含めてもよい。

【 0 0 3 4 】

処置／投薬情報には、当該動物患者が過去に受けた処置または投薬に関する情報を含んでいる。処置／投薬情報には、処置または投薬に対する反応（嫌がったかどうか、体調に影響を来したか等、処置又は投薬自体の受容性・許容性に関する情報）を関連付けて記憶することとしてもよい。処置の内容としては、例えば、肛門腺処置、爪切処置、足裏処置、耳処置、毛抜き、眼科処置、歯科処置、エリザベスカラー・腹帯など、鍼灸処置、留置、便出し、抜糸、消毒、酸素処置、催吐処置、緊急蘇生処置、水抜き、強制給餌、洗浄、圧排、マッサージ、マイクロチップ、トリミング、カテーテル、リハビリ、手術、麻酔、入院、注射、輸血、点滴、検査、放射線治療、各種ドック、介護、衛生処置、シャンプー、しつけ、サプリメント、おやつ、避妊、去勢、ノミダニ駆除、狂犬病薬、ワクチン、フード、内用薬、点耳薬、点鼻薬、点眼薬、外用薬（軟膏・クリーム）、外用薬（消毒薬・スプレー）、外用薬、フィラリア予防などが例示できるがこの限りではない。

20

【 0 0 3 5 】

処方情報は、当該動物患者が過去に処方された薬剤等を含む。処方情報には、自宅にて処方された薬剤を服用できたか否か、嫌がったかどうか、体調に影響を来したか等、処置又は投薬自体の受容性・許容性に関する情報をユーザの携帯端末を介して取得して追加するようにしてもよい。

30

【 0 0 3 6 】

メモは、診察、入院又は手術の担当医、担当看護師、担当事務などにより入力されたテキストデータである。

【 0 0 3 7 】

画像情報は、動物患者の様子を撮影した画像である。画像情報は、静止画像であっても動画画像であってもよい。

【 0 0 3 8 】

< 動作 >

40

図5は、本実施形態の電子カルテシステムの動作について説明する図である。図6は、ユーザ端末20に表示される画面201の一例を示す図である。

【 0 0 3 9 】

ユーザ端末20において動物患者が指定されると（S101）、サーバ10は、画面201を表示するための画面情報をユーザ端末20に送信し、ユーザ端末20において画面201が表示される。画面201は、患者情報2001が含まれる。患者情報2001は、診察カルテ情報に含まれている動物情報とすることができるが、カルテ情報とは別途患者情報を管理するようにしてもよい。画面201には、カルテの種類を指定するための診察カルテの選択ボタン2002、入院カルテの選択ボタン2003、手術カルテの選択ボタ

50

ン 2 0 0 4 が表示される。ボタン 2 0 0 2 乃至 2 0 0 4 は、トグルボタンとすることができ、複数選択が可能である。ボタン 2 0 0 2 乃至 2 0 0 4 によりカルテの種類を受け付けることができる (S 1 0 3)。また、画面 2 0 1 には、カルテ項目の選択タグ 2 0 0 2 および項目詳細の選択タグ 2 0 0 3 が配置され、選択タグ 2 0 0 2 及び 2 0 0 3 により表示するカルテ項目 (及びその詳細) を選択することができる (S 1 0 5)。なお、項目及び項目詳細は選択しなくてもよい。画面 2 0 1 において、動物患者、カルテの種類、カルテの項目 (及び項目詳細) が指定されると、ユーザ端末 2 0 からサーバ 1 0 に通知され、サーバ 1 0 では、指定された動物患者に対応するカルテ情報のうち、指定された種類のカルテ情報から、指定された項目を抽出してユーザ端末 2 0 に送信し、ユーザ端末 2 0 では、サーバ 1 0 から受信した項目を画面 2 0 1 に表示する (S 1 0 7)。ユーザ端末 2 0 は、例えば、画面 2 0 1 において、日付 2 0 0 7 の一覧と、選択された日付 2 0 0 7 に対応するカルテ項目の詳細 2 0 0 8 を一覧表示することができる。

10

【 0 0 4 0 】

図 6 の例では、患者動物「田中キャビ」の入院カルテについての検査項目のすべてが指定されている。これに応じて、当該患者動物に対して入院時に行われた検査の一覧が表示されている。これにより、医療従事者は、例えば、患者動物が入院後に来院した際に、入院時の行われた検査の内容を把握して、当日の診察方針を事前に準備することができる。また、診察時において、入院時に定期的に投与されていた薬を把握したり、避妊手術が行われているか否かを把握したりすることもできるので、医療従事者は診察時の準備を効率的かつ効果的に行うことができる。

20

【 0 0 4 1 】

以上、添付図面を参照しながら本開示の好適な実施形態について詳細に説明したが、本開示の技術的範囲はかかる例に限定されない。本開示の技術分野における通常の知識を有する者であれば、特許請求の範囲に記載された技術的思想の範疇内において、各種の変更例または修正例に想到し得ることは明らかであり、これらについても、当然に本開示の技術的範囲に属するものと了解される。

【 0 0 4 2 】

本明細書において説明した装置は、単独の装置として実現されてもよく、一部または全部がネットワークで接続された複数の装置 (例えばクラウドサーバ) 等により実現されてもよい。例えば、サーバ 1 0 の制御部 1 1 およびストレージ 1 3 は、互いにネットワークで接続された異なるサーバにより実現されてもよい。

30

【 0 0 4 3 】

本明細書において説明した装置による一連の処理は、ソフトウェア、ハードウェア、及びソフトウェアとハードウェアとの組合せのいずれを用いて実現されてもよい。本実施形態に係るサーバ 1 0 の各機能を実現するためのコンピュータプログラムを作製し、P C 等に実装することが可能である。また、このようなコンピュータプログラムが格納された、コンピュータで読み取り可能な記録媒体も提供することができる。記録媒体は、例えば、磁気ディスク、光ディスク、光磁気ディスク、フラッシュメモリ等である。また、上記のコンピュータプログラムは、記録媒体を用いずに、例えばネットワークを介して配信されてもよい。

40

【 0 0 4 4 】

また、本明細書においてフローチャート図を用いて説明した処理は、必ずしも図示された順序で実行されなくてもよい。いくつかの処理ステップは、並列的に実行されてもよい。また、追加的な処理ステップが採用されてもよく、一部の処理ステップが省略されてもよい。

【 0 0 4 5 】

また、本明細書に記載された効果は、あくまで説明的または例示的なものであって限定的ではない。つまり、本開示に係る技術は、上記の効果とともに、または上記の効果に代えて、本明細書の記載から当業者には明らかな他の効果を奏しうる。

【 0 0 4 6 】

50

< 開示事項 >

なお、本開示には、以下のような構成も含まれる。

[項目 1]

動物病院において動物を管理する電子カルテシステムであって、
前記動物に係る診察、入院及び手術を含む対応ごとにカルテ情報を記憶するカルテ情報記憶部と、

第 1 の前記対応を行う際に、前記第 1 の対応とは異なる第 2 の前記対応についての前記カルテ情報から項目を読み出して表示するカルテ項目表示部と、
を備えることを特徴とする電子カルテシステム。

[項目 2]

項目 1 に記載の電子カルテシステムであって、
前記カルテ項目表示部は、異なる前記対応についての前記カルテ情報から同一項目を抽出して一覧表示すること、
を特徴とする電子カルテシステム。

[項目 3]

項目 1 に記載の電子カルテシステムであって、
前記項目には、検査、処置及び処方少なくともいずれかが含まれること、
を特徴とする電子カルテシステム。

[項目 4]

項目 1 に記載の電子カルテシステムであって、
前記カルテ項目表示部は、前記項目に係る定価及び請求金額を表示すること、
を特徴とする電子カルテシステム。

【符号の説明】

【 0 0 4 7 】

- 1 電子カルテシステム
- 1 0 サーバ
- 2 0 ユーザ端末
- 1 0 1 カルテ表示制御部
- 1 0 2 入力手段制御部
- 1 0 3 カルテ情報更新部
- 1 0 4 カルテ D B

10

20

30

40

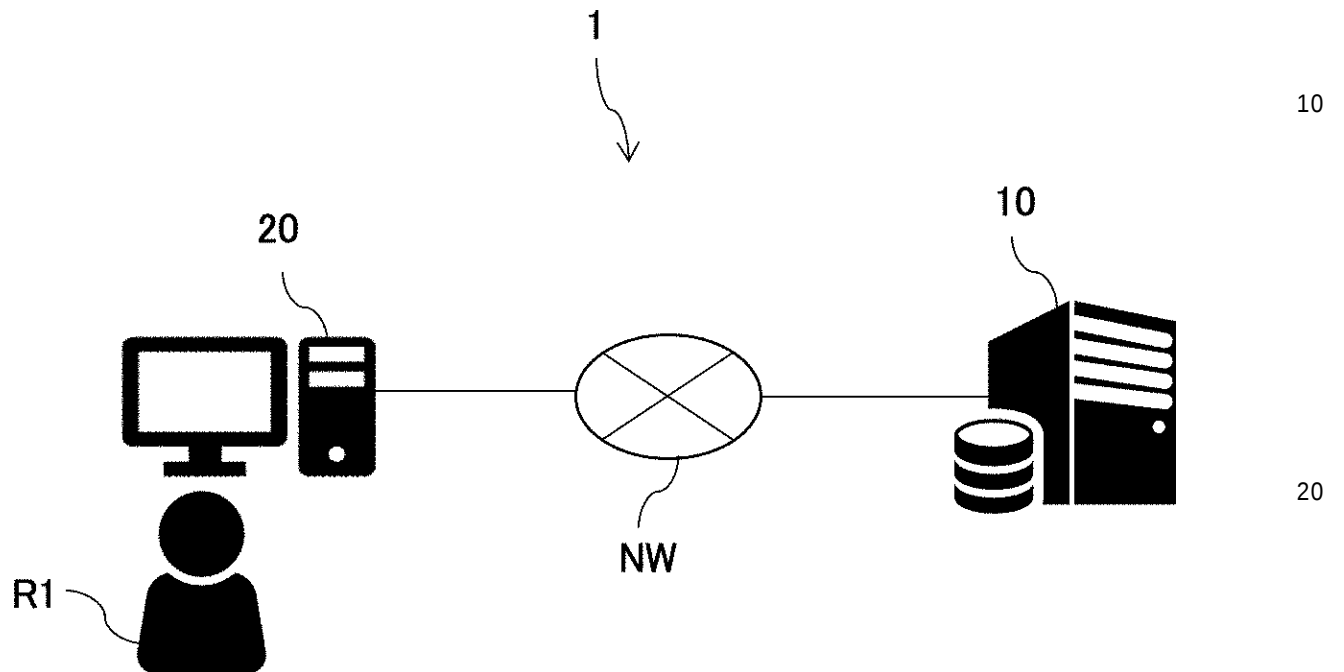
50

【要約】

【課題】動物用のカルテを効率的に管理することができるようにする。

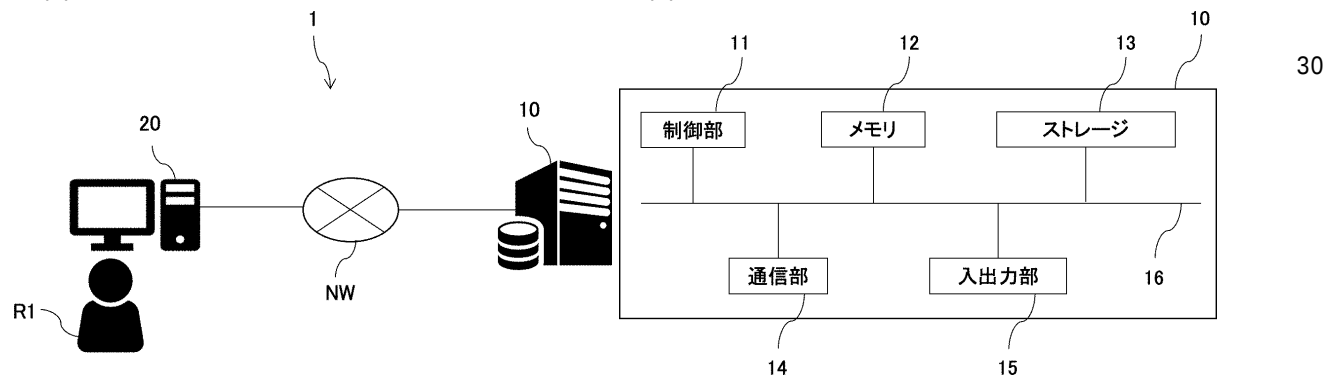
【解決手段】動物病院において動物を管理する電子カルテシステムであって、動物に係る診察、入院及び手術を含む対応ごとにカルテ情報を記憶するカルテ情報記憶部と、第1の対応を行う際に、第1の対応とは異なる第2の対応についてのカルテ情報から項目を読み出して表示するカルテ項目表示部と、を備えることを特徴とする。

【選択図】図1



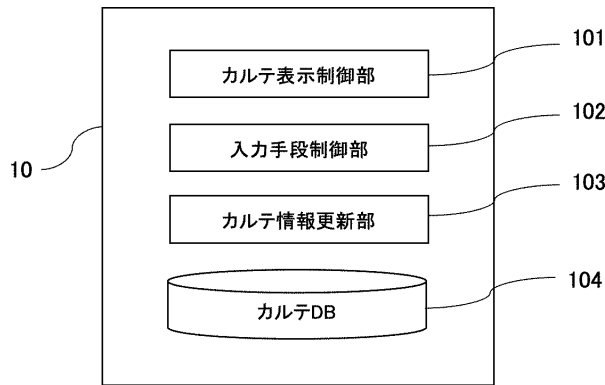
【図面】

【図1】

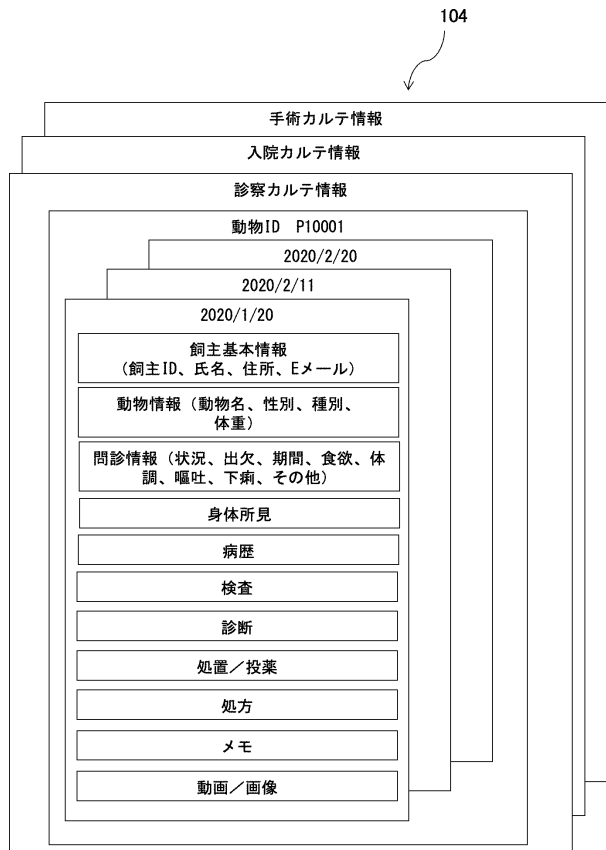


【図2】

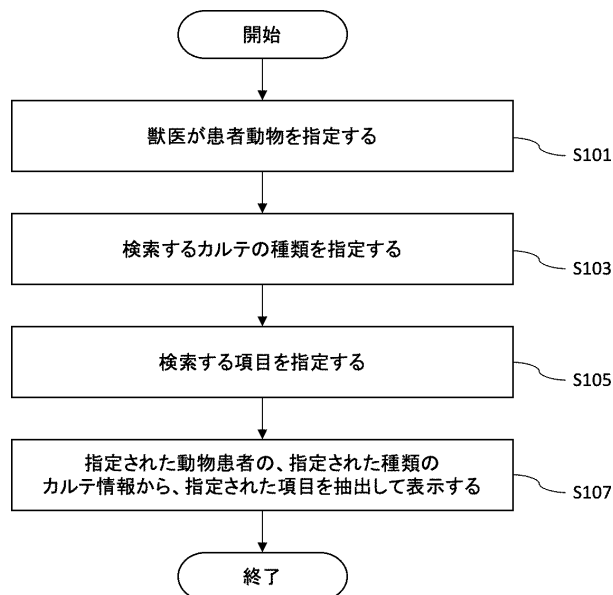
【図 3】



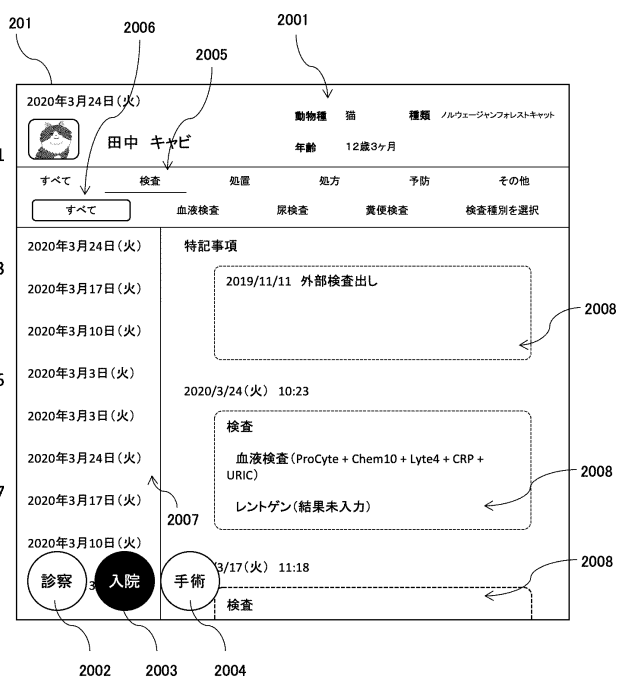
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2 0 1 5 - 0 6 9 5 7 8 (J P , A)
特開 2 0 1 9 - 1 3 3 5 8 7 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
- | | |
|---------|-----------|
| G 1 6 H | 1 0 / 6 0 |
| G 0 6 Q | 5 0 / 2 2 |
| G 0 6 Q | 5 0 / 1 0 |